

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して 学生街の古本屋  
週明けの駅の若葉の眩しさよ 若葉して ぶらんこを吊る太き枝  
空青く光合成の若葉かな 老木の自ら励む若葉かな  
良き風と若葉の道を共にして 青空も見えて 若葉の雨宿り  
人々に横断歩道 若葉風 石罅を撫でつつ減らす若葉かな  
ふく風にまだあはあはと 若葉影 既に花終へし木もある若葉かな  
吹く風の湖より来る若葉かな  
若葉して 滝の飛沫を弾くなり  
若葉して 水を豊かに 城下町  
城若葉ホテルは濠を隔てたる

2023 全然堂歳時記 夏

【若葉】

7月1日の時 20句

2023年7月1日発

10行2段12ボ 桐10

黒き枝も見えて若葉の木なりけり行く人に横断歩道若葉風  
若葉とは日に透きとほる薄みどり若葉してぶらんこを吊る太き枝  
明け方の鳥の食欲庭若葉老木の自ら励む若葉かな  
週明けの駅の若葉の眩しさよ青空も見えて若葉の雨宿り  
青空と光合成の若葉かな大木に深々と根や若葉雨  
良き風と若葉の道を共にして石鹼を撫でては減らす若葉の夜  
若葉して風に抗ふ若き枝既に花終へし木もある若葉かな  
若葉して滝の飛沫を弾くなり  
城若葉ホテルは濠を隔てたる  
若葉して学生街の古本屋

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して水音清き城下町  
若葉して光と影の生れけり 城若葉ホテルは濠を隔てたる  
黒き枝も見えて若葉の木なりけり 行く人に横断歩道若葉風  
庭に来る鳥の食欲朝若葉 ぶらんこを吊りたる枝の若葉かな  
週明けの駅の若葉の眩しさよ 夕若葉 学生街の古本屋  
良き風と若葉の道を共にして 老木の自ら励む若葉かな  
若葉して光合成の静かさよ 青空も見えて若葉の雨宿り  
若葉して早も摘まるる茶の木かな 大木に深々と根や若葉雨  
若葉していよいよ小枝のゆれやすき 石鹼を撫でては減らす若葉の夜  
若葉して滝の飛沫を弾くなり 既に花終へし木もある若葉かな

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して水清らかに城下町  
青春の光と影と若葉風城若葉ホテルは濠を隔てたる  
鳥の餌のこれつぽうちよ朝若葉ぶらんこに子らを遊ばす若葉かな  
週明けの駅の若葉の眩しさよ夕若葉学生街の古本屋  
良き風と若葉の道を共にして老木の自ら励む若葉かな  
若葉して光合成の静かさよひと雨に舗道の濡るる若葉かな  
若葉して早も摘まるる茶の木かな掠れたる横断歩道若葉雨  
若葉していよよ小枝のゆれやすき青空も見えて若葉の雨宿り  
黒き枝も見えて若葉の木なりけり石鹼を撫でては減らす若葉の夜  
若葉して滝の飛沫を弾くなり既に花終へし木もある若葉かな

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して水の音さへ城下町  
青春の光と影と 若葉 風城若葉ホテルは濠を隔てたる  
鳥の餌のこれつぽうちよ朝若葉 ぶらんこに子らを遊ばす若葉かな  
週明けの駅の若葉の眩しさよ 夕若葉 学生街の古本屋  
良き風と若葉の道を共にして 老木の自ら励む若葉かな  
若葉して光合成の酸素湧く ひと雨に舗道の濡るる若葉かな  
若葉して早も摘まるる茶の木かな 横断歩道人に踏まれて若葉雨  
若葉していよよ小枝のゆれやすき 青空も見えて若葉の雨宿り  
黒き枝も見えて若葉の木なりけり 石鹼を撫でては減らす若葉の夜  
若葉して滝の飛沫を弾くなり 既に花終へし木もある若葉かな

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して水の音さへ城下町  
青春の光と影と 若葉 風城若葉ホテルは濠を隔てたる  
若葉して光合成の酸素湧く ぶらんこに子らを遊ばす若葉かな  
若葉していよいよ小枝のゆれ止まず 夕若葉 学生街の古本屋  
鳥の餌のこれっぽちよ朝若葉 老木の自ら励む若葉かな  
週明けの駅の若葉の眩しさよ ひと雨に舗道の濡るる若葉かな  
良き風と若葉の道を共にして 横断歩道人に踏まれて若葉雨  
若葉して早も摘まるる茶の木かな 青空も見えて若葉の雨宿り  
黒き枝も見えて若葉の木なりけり 石鹼を撫でては減らす若葉の夜  
若葉して滝の飛沫を弾くなり 既に花終へし木もある若葉かな

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して水の音さへ城下町  
青春の光と影と 若葉風 郊外の若葉の町の古本屋  
若葉して光合成の酸素湧く ぶらんこに子らを遊ばす若葉かな  
若葉していよよ小枝のゆれ止まず 牛鳴くや若葉の風に首を伸べ  
鳥の餌のこれつぽつちよ朝若葉 老木の自ら励む若葉かな  
週明けの駅の若葉の眩しさよ ひと雨が歩道を濡らす若葉かな  
良き風と若葉の道を共にして 青空も見えて若葉の雨宿り  
若葉して早も摘まるる茶の木かな 本棚を見てゐて飽かず若葉の夜  
黒き枝も見えて若葉の木なりけり 石鹼を撫でては減らす若葉の夜  
若葉して滝の飛沫を弾くなり 既に花終へし木もある若葉かな

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して水の音さへ城下町  
青春の光と影と若葉風 郊外の若葉の町の古本屋  
若葉して光合成の出番なり ぶらんこに子らを遊ばす若葉かな  
若葉していよよ小枝のゆれ止まず 牛鳴くや若葉の風に首を伸べ  
鳥の餌のこれっぽちよ朝若葉 老木の自ら励む若葉かな  
週明けの駅前若葉まぶしけれ ひと雨が歩道を濡らす若葉かな  
良き風と若葉の道を共にして 青空も見えて若葉の雨宿り  
若葉して早も摘まるる茶の木かな 本棚を見てゐて飽かず若葉の夜  
黒き枝も見えて若葉の木なりけり 石鹼を撫でては減らす若葉の夜  
若葉して滝の飛沫を弾くなり 既に花終へし木もある若葉かな